

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700106		
法人名	株式会社 なかよし		
事業所名	グループホームこよし		
所在地	岡山県井原市高屋町3-25-30		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	令和3年12月24日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔と笑い声の絶えない和やかで楽しい家庭的な雰囲気の中で、入居者一人ひとりが自分らしく穏やかに過ごしていただけるよう柔軟な対応を心がけています。その方に合ったコミュニケーションを行い、こよしが心地よい居場所となるように一人ひとりと関わりを大切にしています。又、ご本人とご家族の絆を大切に、ご家族が離れていても安心して一緒に支え合っていける関係づくりに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和3年10月17日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「家庭的な雰囲気の中で、自分らしく尊厳ある暮らしができるよう関わり続けること。家族や地域とのつながりの継続。家族の思いを受けとめ共に寄り添っていくこと。」を理念に掲げている。利用者の暮らしの中でのこだわりや、出来ること・出来ないことを把握し、「私の暮らしまとめシート」の記載により職員全員で共有し、気持ちに寄り添った声掛けや対応に努めている。利用者の気分転換のため、事業所周辺の散歩や屋外での食事、紅葉や桜の時期にドライブに出かけるなど支援に努めている。コロナ禍の為、家族の面会は窓越しで行っているが、馴染みの病院を受診することで知り合いに会えたり、自宅前を通って帰るなど支援している。また、曾孫の誕生を祝うため電話で話す機会を作ったり、遠方の家族との手紙のやり取りを支援する等、個々に沿った馴染みの場所や人との関係継続支援に努めている。(電話で情報を確認・書面調査)

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく所(数か所)に掲示して、職員の意識付けを図っている。これを機にミーティングで振り返りが出来た。これからも定期的にしていこうと思う。	事務所やトイレなど目につく場所に理念を掲示し、意識付けを図っている。ミーティング時や4ヶ月毎に個々の目標と自己評価を行い、利用者との関わり方の振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	残念ながらコロナ禍のため、外部との交流の機会はない。周辺の散歩に出たり、職員が日々の会話の中で地域の情報を伝えている。	新型コロナウイルス感染予防の観点から、行事等が中止となり、地域との交流が困難な状況にある。散歩時に、近隣の庭や畑に咲く季節の花を鑑賞したり、地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して事業所の様子や状況の報告を行い、理解を得られていると思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、感染状況により書面でのこともありますが、事業報告を行い、意見を聞くことができ、日々の支援に活かしている	2か月に1回、公民館長・自治会長・民生委員・社会福祉協議会・介護保険課・小中学校長の参加にて開催している。コロナ感染状況により、開催が困難な時には、事業報告書を郵送し、意見の返信を得ることでサービス向上に活かし関係継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者も運営推進会議にご出席いただき、ご意見を聞く機会をもてている。又、事故報告などで対応策についての相談、意見をいただいている。	運営推進会議の参加もあり、事業内容や利用者の状態報告、コロナ対策として面会・外出の取り組みや事故の報告時などに相談し、助言を得るなど積極的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回職員の勉強会を行っている。転倒予防の為やむを得ずセンサー等必要な時は家族に相談、了承を得て使用のこともある。定期的に職員で話し合い、見直しをしている。	年2回、身体拘束についての勉強会を開催している。センサーマットや4点柵を使用している利用者があり、毎月のミーティング時に職員全体で検討している。利用者の状況に合わせて使用を控えたり、話をよく聴き、散歩やお茶を飲むなど気分転換に努め、対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年勉強会にて再確認をしている。日々の声かけや対応について自身の振り返りをする機会になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今、申請中の方がいます。これを機会に知識を深めていこうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が本人・家族に内容を説明し、不安や疑問等がないか確認した上で同意をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と運営基準を置いて閲覧できるようにしている。日頃から気軽に意見や要望、相談し易い雰囲気づくりを心掛けている。	利用者からは日常生活の中で聞き取り、家族からは電話やメールで連絡・相談があり、信頼関係を築けるよう努めている。歩行や運動についての要望があり、運動やケアを介護計画に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングで意見交換を行い、困っている事の問題点の解決を図るようにしている。代表者だけ見る意見箱の設置や自己評価表に意見をかくこともできる。	職員の意見から、健康観察を午後に追加することで、異常の発見と対応が行え、急変に備える事ができた。また、不穏になる利用者のために業務改善に取り組んだり、職員が企画した季節の行事やお楽しみランチなども反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各自定期的に目標と自己評価を代表者に提出している。個々の努力や実績を認めて評価をしてもらえ、職員の更なる向上心につながっている。又、判断に迷う時は気軽に相談のできる環境でもある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は確保できているが、コロナの為、法人外の研修は参加が難しい。資格取得の研修はすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染状況により、機会は減っている。連絡協議会や法人内ケアマネや居宅ケアマネ等を通して情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や不安な気持ちを受け止めて、要望に応えられるようにどう対応していくのかを説明している。出来るだけ安心感をもってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人からは聞けていない情報を聞き取り、家族のこれまでの大変さを理解するようにしている。入所後は特に連絡を密に取り、様子を知らせたり要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時に担当ケアマネや家族の話を聞き、必要性の検討をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりでも出来る事、一緒になら出来る事など同じ作業でもその人その人に合わせてお願いをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所都合の一方的にならないように、状況が変わればその都度様子を伝えて相談や協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者によっては家族の確認が必要な場合もある。トラブルにならないように気を配りながら支援している。	コロナ禍の為、家族の面会は窓越しで行っている。馴染みの病院を受診することで、知り合いに会えたり、自宅前を通って帰るなど支援する利用者もいる。電話で話す機会を作ったり、遠方の家族との手紙の継続支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子を観察し、孤立やトラブルのないように座席を考慮したり、職員が間に入って関わり合いが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要な時にはいつでも相談してくださいと声をかけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員都合の生活スタイルにならないように気を付けている。昼夜逆転で夜間不眠の場合は無理強いせずに日中離床できるように本人の好む活動を見つけ出し対応している。	日々の関わりの中で、利用者の思いを聞くようにしている。対応困難な場合も、根気よく気持ちに寄り添った対応に努めている。把握した必要な情報や気付きは、記録し、申し送りやミーティング時にも再確認して職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の家族や担当ケアマネ等からの情報を参考に、日々本人と会話する中でより詳しく新しい情報を得ることがある。内容に疑問がある時は家族に確認し、職員間でも情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の交代時に申し送りをし、その時の状態を把握したうえで勤務に入れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思い、日々のケアの中で出た職員の意見や主治医の意見を参考に、退院時はサマリを基に本人の状態を確認しながら作成している	日頃から利用者の状態把握に努め、職員や家族から意見を取り入れ、介護計画を作成している。モニタリングと見直しは6か月毎で行い、状態が変化した場合はその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録、申し送りで情報共有ができています。定期的なモニタリング、状態に変化がある時は見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態把握と家族の現在の状況も把握するようにしている。状況の変化、問題が生じたときは必要に応じて主治医や市の担当者に相談、助言を求めようとしている。又、法人内でも情報交換をする機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、以前のような地域資源の活用が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に日々の様子、気になる症状等を書面にて適切に伝えられるように心がけている。受診以外でも気になる事があれば電話にて指示をいただくこともある。	入居前からの主治医の受診を継続しているが、家族の希望で事業所の協力医へ変更することもある。救急時の対応について事前に家族と意志確認を行っている。緊急時は、主治医の指示にて適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル、水分、食事、排泄の管理を行い、普段と違うなど気づいたこと、心配なことは相談し、必要な時には受診や訪問で点滴をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をしている。入院中は病棟の相談員等と連絡を取りながら、家族の意向・本人の状態を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化し、医療ニーズが増えてきた時は状況に合わせて他施設への検討などを含めた説明、必要な時には医師を交えて今後の話し合いをすることもある。医師との連携体制を整えたいと看取りを行うこともある。	事業所で出来ること・出来ないことを説明している。状態変化時は、家族へ様子を伝え、その都度意向の確認をしながら、方針を共有し職員全員で取り組んでいる。看取り後の振り返りでは、医療と家族との連携が図れ、家族からも「悔いのない看取りができた」と思いを伝えられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師による救急救命の講習会を行い、ADEの操作や心臓マッサージの実習をしている。急変時のマニュアルは事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成、年2回防災訓練を実施。特に夜間発生の想定でシュミレーションを行っている。消火器の操作、避難経路の確認、通報方法、連絡順番の確認、近隣の方にも協力をお願いしている。	6月は、夜間想定・火災避難訓練を、利用者が参加し消防署員立ち合いで行っている。(12月は職員のみで災害時の対応について行う予定)備蓄は食材などで3日分は確保している。火災時には、近隣住民の協力を得る体制を築いている。	停電や水道が不通になった時を想定した災害対策を検討し、利用者の安全な暮らしの継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声かけの仕方、表情や反応をみながら接し方に気を配っている。年に一度「接遇について」の勉強会を行うことで自分たちの振り返りをしている。	一人ひとりの反応や表情を見ながら、その時に合わせた気持ちに寄り添った声かけに努めている。排泄の見守り時には、視界に入らないように立ち位置を考慮したり、ドア外で待機している。誘導の声かけも周りに聞こえない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いや希望を伝えやすい関係性に努めている。上手く伝えられない、会話が難しい人には特にコミュニケーションを図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日その時の心身の状態を考慮し、気持ちよく穏やかに過ごせるように其々のペースを大切するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理美容サービスを利用している。季節ごとに衣替え、サイズが合わなくなったり必要な物があれば家族にお願いすることもある。自分でできる身だしなみはしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さん食事が一番の楽しみです。準備から一緒にできればと考えますが、今は難しいのが現状です。お膳等を拭きやおしぼり干し等は出来る人に順番にいただいている。	食事は食材宅配サービスを利用しているが、行事食は職員が手作りをしたり、仕出し弁当をテイクアウトすることもある。毎月のお楽しみランチでお寿司やお好み焼きを提供したり、自分でどら焼きにアンコを挟んで食べるなど食事を楽しめる支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録、水分補給の時間を決め最低限の水分量は確保できるようにしている。摂取が難しい人には寒天や好まれる物を聞きながらすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に誤嚥予防の体操、食後に口腔ケアを行う。その人に応じて見守りや仕上げ磨きをし、必要な時は家族に歯科受診の相談をしている。夜間は義歯を外してもらい、隔日で洗剤につけて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、自分からは難しい人には声かけ、誘導をしている。日中はホールのトイレ、夜間は安全性を考慮し、家族に相談してポータブルトイレを使用の方もいます。	排泄記録を基に声かけやトイレ誘導を行い、利用者の出来る機能を重視し、排泄の自立に向けた支援をしている。夜間は、個々の身体・睡眠状況から、ポータブルトイレを利用する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分摂取+寒天や牛乳をすすめている。運動の為周辺の散歩もしますが、歩行状態により限りがある。主治医に相談し、最終的には下剤でのコントロールになる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や意向を伺いながら、週2~3回入浴できるようにしている。入浴拒否の方には無理強いをせず、声かけや入浴方法の工夫をしている。	週2~3回・午前に、好みの温度や湯の量を聞きながら、個々に合わせて気持ちよく入浴ができるよう支援している。拒否がある場合は無理強いをせず、足浴を試したり、清拭や着替えのみ行う時もあり、声かけや対応の工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望、体調の合わせて休息の時間をつくり、室温・部屋の明るさ・寝具など好みや要望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別に綴り、目を通すようにしている。薬の変更があった時は記録に残し、職員全員が周知し、状態観察をしている。服薬時は日付・名前の確認、飲み終えた袋もチェックしてまとめ、数日は保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みを確認し、得意な事や興味のある事を取り入れるようにしている。又、日々の関わりの中で新しい情報があれば共有して活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、気分転換に周辺の散歩程度の外出しか出来ない。受診時に地元の知り合いに会い、声をかけ合って懐かしい会話を楽しまれることもある。	コロナ禍で外出の機会は減っているが、周辺の散歩や屋外のベンチに座って外気浴を行っている。季節を感じられるよう、紅葉や桜の時期にドライブに出かけている。気候の良い時には、机と椅子を持ち出して屋外で食事をすることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお持ちの方は居られません。コロナの為に一緒に買い物に行くことも出来ず、欲しいものがある時は家族や職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望で電話を取り次ぐこともある。手紙のやり取りを続けている人には続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節の飾り物を一緒に作り、飾っている。カーテンや簾等で光の調節、温度、湿度の管理に努めている。空気清浄機やオゾン発生器の設置で防臭・除菌の効果を図っている。感染対策に24時間換気、日中は窓を開けての換気にも努めている。	窓際にソファ、窓外にベンチを置き、その時の気分で自由に場所を変え、思い思いに過ごせるよう工夫している。加湿器や除湿器での湿度管理、空気清浄機等の設置や換気に留意し、感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外を眺められる所にソファや椅子、窓外にベンチを置き、くつろげる空間をつくっている。その時の気分で座り、一緒になった人との会話もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただいたり、その人に合わせて落ち着いた空間になるように考えている。季節の塗り絵などの作品や家族の写真などを飾っている。	馴染みの家具などを設置したり、趣味の道具などを持参する人もいる。反対に物があると落ち着かないため何も置かない人もあり、一人ひとりの特性に合わせて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	其々の居室がわかるように入り口に表札、自分の座席が分からなくなる人には椅子に目印や名札を付けている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		防災対策について、まだまだ不安な点がある	災害への意識を高め、咄嗟の状況判断・対応ができるようにする	地震・水害など様々な場面を想定して、職員間で話し合う機会をつくる(ミーティング等)	12か月
2		コロナを理由に室内で座って過ごすことが当たり前の日常になっている	利用者が楽しいと感じる瞬間を増やし、日々の生活にメリハリをつける	・周りの感染状況をみながら、参加(見学)できる行事を検討する ・ホームで出来る楽しい活動(レクレーションや季節の行事等)を意見を出し合い計画する	12か月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )